
天地

ネットワーク テーブル 471号

発行：天地シニアネットワーク：2018・5・18

TENT I TODAY			1
会員の広場	<二つのエピソード><私の履歴・トヨタ出身で仙台に在住しています><終活>		2
連載作品			5
随 想	天のわざ、地のほまれー地球を測れ、宇宙を測れ 46. 直流と交流	伊那 闊歩	5
随 筆	「1950年代の僕と街」(八) 父の戦争／戦闘体験	臺 一郎	8
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(44) 哲学の道・周山街道の古刹1「高尾の夏・神護寺」	大竹 漢洲	10
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」		13
事務局			13

TENT I TODAY

ゴールデンウィークの初めに家族で山形へ出かけました。泊は山形市に決めていましたが、どこへ行くかは現地でというのが我が家のパターン、一応立石寺、蔵王、霞城公園など観光地を回りましたが、米沢、鶴岡など歴史的な興味のあるところは、遠くてまたということになりました。市内は意外と空いていて、外人客もあまり見かけませんでした。これからサクランボのシーズン、観光客がどっと押し寄せるのでしょうか。

当地区は、明治新政府に最後まで抵抗したところ、その負の名残が今なおあるように感じました。山形牛の肉料理は美味でしたが、感激は<日本そば>、水が良いせいでしょうか美味しいのにびっくりしました。蔵王の頂上付近にはまだ残雪がたくさん残っていました。

アメリカンフットボール界が、日大問題で大揺れです。日大選手のラフプレー、監督、コーチの指示、指導、常軌を逸していますが、日本のどのスポーツ界にもありそうな問題で、考えさせられます。テレビ画面で見る限り、ラフプレーは、故意であり、監督、コーチからの何らかの指示が、試合前からあったことは間違いなさそうです。

今後、監督・コーチの責任が問われ、選手も重い処分を受けそうですが、気になるのは、仮に監督・コーチからの指示があったとしても、選手が自分の判断で、相手を故意に傷つけるような禁止プレーを中止することができなかつたのか、ということです。

上から、言われたのでとか指示されたので、あるいは忖度してというような、本来では通用しない言い訳が、日本の社会では当たり前のように通用するようになりました。

最近のスポーツ界は、監督・コーチは指示せず、選手自身に考えさせプレーをするという風潮が強まっています。結果でみてもそれが良いようです。今回の、日大騒動、大学スポーツの後進性を世に示す結果になっているようですが、この傾向がスポーツ界だけではないところに深刻さが増します。

会員の広場

二つのエピソード

岩淵 彰

秋の一日中央自動車道を西へ向かっていた。甲府盆地を過ぎてしばらくすると長い登りに入る。甲斐駒岳、八ヶ岳が左右に見えてきた。私のオカリナ好きを知っている友人が贈ってくれた宗次郎の名曲集を聴きながらフロントガラスに映る翳雲が美しい。何気なく三つの単語が口をついた。「翳雲カーステレオの宗次郎」これ俳句になっているかなあ。還暦前後から俳句に関心を持ち始めていて時折り新聞の俳句欄やNHK松山局の「BS俳句王国」をながめていた。「これ面白いから投句してみようか」隣りの妻が「出してみたら」

一か月は経っただろうか。夕食をとっていたら電話が鳴った。「松山放送局ですが貴方の句が次週の俳句王国に放映されます。内容はこれで良いですか」確認の電話であった。

当日の選者は「青玄」主宰の伊丹三樹彦先生。後日当句を記した墨痕鮮やかな色紙が贈られたきた。今でも書斎に掲げてあるが大仰に言えばこの放映が俳句に本気で取り組んでみようと思いついた瞬間であったといつてよい。忘れられない一句であり初句集「楽土」にも載せたのでご報告方々現在御息女が主宰をされている「青玄」宛て御送りしたら何と三樹彦先生御自身から礼状が届いたのである。先生は当時で既に七十代後半の高齢であったが大正九年（1920年）生まれで現在九七歳、まだまだ御健在だったのである。これには驚くと同時に大感激であった。お元気を窺わせる達筆で「作者は確たる信念の持ち主で・・・」とお褒めの言葉と共に好きな句として「悟り無き晩年されど御来迎」など五句が記されてあった。早速礼状を差し上げたがこの一事だけでも句集を作って良かった。そして俳句は人を老いさせないとつくづく思うのである。

平成一五年「遠嶺」に入会して紫苑句会（四ツ谷区民センター）に通うようになった。メンバーに嶋木勝次郎さんと三澤蘭さんがおられ二人とも新宿在住で仲良く往復を共にされることが多かった。大正三年生まれの嶋木さんの自説を曲げない俳句観に小澤先生は苦笑されながらも丁寧に答えられたり高齢の蘭さんの活発な発言に句会はずいぶん盛り上がり楽しかった。シベリヤ抑留時代の辛い体験や一方華やかで幸せな時代の思い出が句に表れて作者が分かってもいつしか御二人の句を選んでいたのである。俳句は脳内に詰まっている来し方のもろもろを楽しむものだといひとり合点した。歳を重ねるほど豊かな世界に浸ることが出来る。長寿の秘訣は脳をさぼらせないこと

と言うが俳句ぐらいこれにぴたりのツールは無いのではないか。句会後の懇親の席での嶋木さんのシベリヤ話、蘭さんはカラオケで優雅なダンスに興じた。百歳をあと五カ月にして逝った嶋木さん、天寿を全うした蘭さん、俳句は人を老いさせないとあらためて思う。

山河の美しい信州は詩文化のまことに豊かな土地柄だ。東京生まれの私には学童疎開で縁の深まった信州こそ我がふるさとなりと言わせてもらっている。花鳥諷詠より人間諷詠に傾きがちな句心ゆえにかねてより短歌にも関心を寄せており諏訪出身の島木赤彦はじめ伊藤左千夫、斎藤茂吉などアララギ派草創期の活躍ぶりを知りたくて一日諏訪湖畔の赤彦記念館を訪れた。諏訪は八ヶ岳南麓の草庵から一時間以内の言わば散歩コースでお湯、お酒につられてよく出掛ける。湖畔から少し入った静かなところで気付かず通り過ぎてしまうような手打ち蕎麦の小さな店があった。テーブル三つと小上がり。信州の銘酒がそろっていて蕎麦は抜群。中年の御主人と奥さんの人柄が素晴らしい。すっかり気に入ってしまっただけから時々寄るようになった。何年か前大学仲間の句会の吟行旅行を諏訪で催し昼食をこの店に案内した。貸切状態でおおいに盛り上がりやがて一句会が始まった。折りから新蕎麦の季節。御主人を交えた全員写真と各自の一句を列記されたものがその後店の壁に掲額された。そして偶然御主人の母上が諏訪で知名の女流歌人だったのである。後日この写真と句をご覧になり我々の様子を御子息から聞かされたのであろう。御自身の所属されている全国組織の短歌結社「あさかげ」の会誌に「意気軒昂の俳人ご一行」という表題で二ページに亘る長文のエッセイを寄稿されたのである。

以下原文のまま。（昨年末息子が一日の営業を終えて帰宅し「今日は吟行に諏訪にきたと一見なみなみならない風格の御老人十名が見えられ地酒と御蕎麦を賞味され各人が一句ずつ作って披露し、蘊蓄の深さと品格に圧倒された。全員八十台とのことに、こんな凄い人達がいるのかと感動した」と興奮して話しお袋さんがいたら勉強になったと思うよと残念がった。背筋もびしっと青年のような体型、おしゃれな着こなしの老紳士御一行に私もおめにかかりたかった）（その後世話役のI氏（筆者）が来店されたとき初対面とは思えぬ親しみを持って話しかけてくださり有意義な時間を過ごす事が出来た。・・・）

過分な御言葉の数々には恐縮する思いだが後日店で初めてお会いし短歌、俳句談議に花が咲いて時を忘れた。八十代後半であろうか、まことに気品のあふれる情味豊か頭脳明晰な老婦人で俳句についての造詣も深く短歌の世界と合わせてたいへん勉強になった。その後この歴史伝統ある信州の歌人との交流は続いてをり詩歌の文学表現について考えさせられることも多い。眞砂女、兜太、プレバトと話題は多岐に及ぶ。この偶然の出会いは私にとって大きな財産となった。差し上げた「楽土」についての御丁寧な御鑑賞も記されていた。お褒めの言葉に添えて[峰八つ一岳となり霞みけり]「繰り言に封印をして月今宵」など七句が選ばれていた。最近では俳句と短歌の交差点に立っている自分を意識下にうっすら感じている。

諏訪吟行の学校仲間の句会は二十年を越えてオリンピック開催年毎に合同句集を4回発刊して来たが二〇二〇年でいよいよ第5集となる。なんとかこれは実現したい。「楽土」から各人二〇句を選び一覧表にしてそれを酒の肴に年の瀬の一夜とことん俳論を戦わすことになった。俳句は己の人格、美意

識をあくまで肯定する。甲論乙駁一步も引かないバトルは夜の更けるまで続いた。

初句集も以て瞑すべしとなった。

470号、有難うございます。大層マニアックな方の投稿もありこれを収録して頒布(?)するのは大変な事だろうと敬服しました。投稿にあったように私もこれにはついていけません。その他は良く分かります。ハスケハナ川や銀閣寺も素晴らしい。秀逸です。何しろここまで回数を重ねたことは津田さんの努力があつてでしょう。素晴らしいことです。お礼まで。

山ノ井

〈私の履歴・トヨタ出身で仙台に在住しています〉 森永善彦

初めて天地シニアネットワークに投稿させていただきます森永善彦と申します。中学、高校の同期の臺(ウテナ)君からこのネットワークの主宰者の津田さんを紹介して頂き、何か記事を投稿してみたらと勧められました。初めに自己紹介をさせていただきます。1946年6月生まれ、ふたご座で成年です。生まれてからあちらこちらを移動して来た所謂根無し草です。

生まれは秋田県鹿角市尾去沢、8か月で宮崎県榎峰(延岡の山奥)、5歳で愛媛県の角野町(現新居浜市)、11歳で北海道十勝郡広尾町、12歳で東京都杉並区と転々として来ました。転居は私の意志では勿論ありません。父親が非鉄金属の鉦山会社に勤務していて、父親の転勤に従い日本の色々な地方の町に住んだ次第です。幸い小学6年生の春に東京に転居して来たので桐朋中学に入学する機会を得ました。

一橋大学に1年浪人して入学、就職は大学時代の先輩の勧誘(かなり強引な)でトヨタ自動車販売(現トヨタ自動車)。やっとな馴染んだ東京を離れ名古屋暮らしが長くなりました。海外部門に所属したので会社生活の間にアメリカ・ロスアンゼルス勤務(3年)、ポーランド・ワルシャワ勤務(5年)、イギリス・ロンドン勤務(7年)を経験しました。また90年代初めの通信業界の再編時にIDCと言う国際電話の会社に3年勤務しました。トヨタやIDC勤務時に海外のあちらこちらに出張で出掛け、数えて見るとプライベートの旅行を含め過去に75の国・地域を訪れています。以上が私の履歴です。

或る意味で特定の土地への執着・こだわりは余り有りません。数多くの転居人生で何処にでもすぐ順応する体質になったのでしょうか。

今は退職後地縁の無い仙台に2009年6月以来住んでいます。2011年3月の東日本大震災も身をもって経験しました。仙台への転居を考えた時妻は大いに不満でしたが、女性は土地への適応能力が高いようで、今では仙台に数多くの知人友人を作り生活をエンジョイしています。

私は好奇心が強い性格で色々な事に手を出しましたが、反面飽きっぽく根が續かない面もあり、今続いている個人の趣味は、学生時代に始めたゴルフ、水彩画・スペイン語(教室に通っています)、読書、園芸(ピオーネ等のブドウ作りに取り組んでいます)等々です。世界史・日本史等の歴史や現代の社

会・政治にも興味を持っています。また当地の東北学院大学と宮城大学で毎年数回“トヨタ方式”について講義をしています。

宜しければ、過去の海外での経験や色々な事象について感じた事等をこの紙面をお借りしてお話しさせて頂けたら幸いです。

また、もしご興味をお持ちの方がいらっしゃれば“トヨタ方式”についてお話しさせて頂きます。会社生活では断片的にトヨタ方式の知識を持っていましたが、大学で講義する為専門でないトヨタ生産方式も含めトヨタについて全般的に勉強して大学で講義をしています。

今後宜しくお願い致します。

《終活》

このところ、小学校のクラス会は、担任だった92歳になる先生が、お元気でカラオケ好きなので、もっぱらカラオケ大会になります。そんなこともあって、カラオケとは、とんと縁の薄い世代でしたが、最近は、抒情化から演歌まで結構レパートリーが広くなり、自分でも驚いています。クラスの仲間の一人に、コミックソング・麦畑をいつも一緒に歌う、女性がいます。先日、「松っあん（コミックソングに出てくる男性の名前）よ、おら一入院して膀胱がんの手術をして、薬を飲んでいー」という電話をもらいました。「お米さん（コミックソングの相方女性の名前）よ、80歳過ぎたんだから、ゆっくり治療して出てきたらまた歌おうよー」と、返事をしておいたのですが、最近、これまで元気だった方の訃報や、病気、入院の話を目にすることが多くなりました。

一方、つい先日、浜松から所用で上京し、しばし歓談していった会社の同期生K氏、有料老人ホームにご夫婦で入ったものの奥様に先立たれ、現在は、一人住まい。ホームにいと、付き合いもなく、楽しみは食事だけで、毎日が死ぬほど退屈と語っていました。終活、他人ごとではなくなりました。

（津田孚人）

連載作品

天のわざ、地のほまれ
—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

46. 直流と交流

物理量は必ず「単位」によって数値化される。単位を設定することは基本的に重要なことなので、ここでまた単位について復習しておこう。物理学に現れる基本単位は、質量(kg , キログラム)、長さ(m , メートル)、時間(s , 秒)、温度(K , ケルビン)、物質量(mol , モル)、光度(cd , カンデラ)そして電流(A , アンペア)の7つあって、括弧内は国際単位系(SI)として制定されている基本単位系を示している。とくに、電磁気にかんする物理量の単位は、電流だけを基本単位(A , アンペア)として採用しておけば、電圧、電気抵抗、電気量・・・すべてアンペアを用いて(他と組み合わせて)表わすことがで

きる。

力の単位はニュートン(N)であるが、SI 基本単位を組み合わせて書けばニュートンの組み立て単位が

$$[N] = [kg \cdot m \cdot s^{-2}]$$

となる。ここで[N]はニュートンという呼称の単位をあらわす。右辺の[]内がニュートンの**組み立て単位**である($s^{-2} = 1/s^2$)。1 N は、リンゴ1個にはたらく地球の重力の強さにほぼ等しいのであった。このリンゴを重力のはたらく向きに1 m 落としたとき、重力がリンゴに為した仕事が1ジュール(J)である:

$$[J] = [N \cdot m] = [kg \cdot m^2 \cdot s^{-2}].$$

電気量(クーロン、C)の組み立て単位は $[C] = [A \cdot s]$ である。電力量の単位としてワット(W)が使われるが、1 ボルトの電位差がある2点間を1アンペアの電流が流れるときに為される仕事率を1ワットという。それは、毎秒1ジュールの仕事に相当する。

$$[W] = [V \cdot I] = [kg \cdot m^2 \cdot s^{-3}] = [J/s]$$

と表せるから、電圧(電位差、V)の単位[V]は両辺をAで割って

$$[V] = [kg \cdot m^2 \cdot s^{-3} \cdot A^{-1}]$$

となる。電気抵抗(R)の単位はオーム(Ω)であるが、オームの法則: $V = RI$ によって電圧を電流で割れば良いから、電気抵抗の組み立て単位は

$$[R] = [\Omega] = [kg \cdot m^2 \cdot s^{-3} \cdot A^{-2}]$$

となる。

電荷の単位クーロン(C)に対応して磁荷の単位ウェーバ(Wb)を導入したのであったが、じつは磁荷は仮想的なものであって実在せず、むしろ磁束の閉じたループを考える方が、より現実的である。この観点からウェーバ(Wb)を磁束のSI組み立て単位として定義する方が現代的である。ファラデーの電磁誘導の法則(前回参照):

$$V = -d\Phi/dt$$

に基づいて「1秒あたり、1ボルトの起電力を生ずるような磁束(Φ)の変化量を1ウェーバ(Wb)」と定義しなす。すると、

$$[Wb] = [V \cdot s] = [kg \cdot m^2 \cdot s^{-2} \cdot A^{-1}]$$

となる。これは磁荷を想定して定義したWbと同じものである。

電気量(クーロン) = 電流(アンペア) × 時間(秒)であったが、

磁束(ウェーバ) = 電圧(ボルト) × 時間(秒)となっている。

磁束密度(磁束/面積)の単位はテスラであったから、テスラの組み立て単位は

$$[\text{テスラ}] = [Wb \cdot m^{-2}] = [kg \cdot s^{-2} \cdot A^{-1}]$$

となる。こうして電磁気にかんする物理量の単位がすべて、電流だけを基本量として表現されるのだ。そこで以下、電流についての法則や重要事項についてまとめておこう。

電流は磁場の影響を強く受けることを除いては、それは水の流れとかかわるところがない。fig.1 は簡単な直流回路の図で、電池Vの起電力によって、電流が矢印の向きに(電子の流れの向きは逆)生じたことを示している。電圧(V)は電流が抵抗A(R_1), B(R_2), C(R_3)を通過する度毎に下がるが、電流(I)はそのまま変わらない。抵抗Aの両端の電位差を V_1 、同じく抵抗B, Cの両端の電位差をそれぞれ V_2 , V_3 とするとオームの法則により

$$V_1 = R_1 I, \quad V_2 = R_2 I, \quad V_3 = R_3 I$$

となるが、これは回路上の抵抗 A, B, C においてそれぞれ V_1, V_2, V_3 の電圧降下があるわけで、それらを加え合わせたものが起電力 V に等しいのである：

$$V = V_1 + V_2 + V_3 = RI,$$

$$R = R_1 + R_2 + R_3$$

以上から直列接続の合成抵抗 R は、回路上の抵抗をすべて加え合わせたもの

$$R = R_1 + R_2 + R_3 + \dots$$

になることがわかる。

並列回路 (fig.2) においては、電流 I は点 a で2つに分かれ点 d において再び合流する。分れた電流をそれぞれ I_1, I_2 とすれば

$$I = I_1 + I_2$$

抵抗 D, E の値を R_1, R_2 とすれば、 ad 間および bc 間の電圧は V であるから

$$V = R_1 I_1 = R_2 I_2 = RI$$

となる。この2つの数式から

$$\frac{1}{R} = \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2}$$

を得る。以上から並列接続の合成抵抗 R はつぎの等式：

$$\frac{1}{R} = \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} + \frac{1}{R_3} + \dots$$

によって与えられることがわかる。

オームの法則につづく、これら電気回路の法則は、プロイセンの物理学者グスタフ・キルヒホッフ(1824-1887)によって発見された。キルヒホッフは、それらを次の2つの法則としてまとめたのだ(*1)。

キルヒホッフの第1法則：回路中の任意の分岐点で、入ってくる電流と出て行く電流は等しい。

キルヒホッフの第2法則：起電力の総和は電圧降下の総和に等しい。

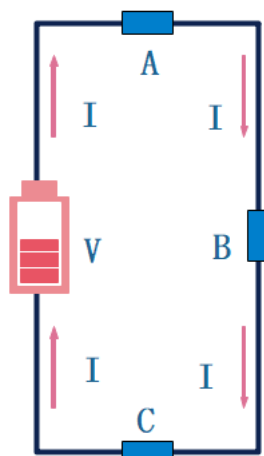


fig. 1
直列接続

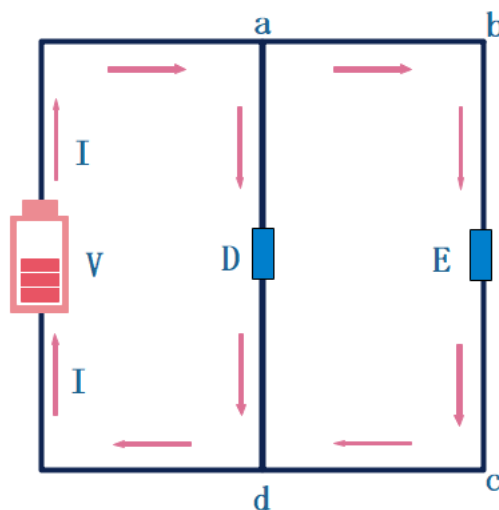


fig. 2
並列接続

現代社会では、電流として直流よりも交流の方がより一般的で、家庭で使われる電気器具はすべて交流に対応している。直流の向きは一定で変わらないが、その流れの向きが時間に依存して（周期的に激しく）変化する電流を交流と呼んでいる。発電機のローターに流れる電流は、ローターが半回転（180度回転）する毎に電流の向きが逆になる。発生した電流の取り出し口に「整流子」を取り付けて電流の向きをいつも一定にしたものが直流発電機であった。逆に、直流発電機に直流を流せば、直流モーターとしても使えるのであった。もし直流発電機から整流子をとり除けば、ローターの回転に同調して時間的に向きが変化する電流を取り出すことができる。これが交流発電機である。

ローターが1秒間に50回転すれば、電流の向きは1秒間に50回、目まぐるしく入れ替わる。これを交流の周波数といい、日本では東日本が50ヘルツ(Hz)西日本は60ヘルツに決められている(*2)。電圧は周知のとおり、全国で100Vに統一されている。

(*1) ある研究会で、米国人研究者が「カーコフズ ロウ」と言ったので一瞬戸惑ったが、それは「キルヒホッフズ ロウ」であることに気がついた。外国人の名前や固有名詞を聞き取ることには苦勞する。ところで、ウスター・ソースを正しく綴れますか？

(*2) 富士川と糸魚川を繋いで出来る線を境界線として、東日本の周波数は50ヘルツ(Hz)、西日本は60ヘルツになった。明治時代に東京電燈(現在の東京電力)で50ヘルツの発電機をドイツから輸入し、大阪電燈(現在の関西電力)が60ヘルツの発電機を米国から輸入して別々に送配電をはじめたのが、そもそもの由来であるとのこと。

電気機器のうち、電気ストーブ、電気こたつ、トースターなど電熱線を内蔵した機器については周波数に関係なく使用することができる。テレビやパソコンなども、内部で交流を直流に変換するので問題ない。扇風機、掃除機、ミキサーなどモーターを内蔵している機器は、周波数によってモーターの回転数が変わるので関西で使っていたものを関東で使えば性能が落ちる。一方、洗濯機、タイマー、電気時計、電子レンジなどは内蔵する時計が狂うので、そのままでは使えないことがあるので注意が必要だ。長野県と新潟県には、50ヘルツ、60ヘルツが混在する箇所があるので、今どの周波数帯に居住しているか把握しておかなければならない。

随筆風「1950年代の僕と街」(八) 臺 一郎

父の戦争／戦闘体験

僕が小学生の頃、父は時折思い出したように、自分が兵として参加した太平洋戦争の話をした。前にも書いたが、父は昭和16年に赤紙の令状で帝国陸軍に召集された。内地で初年兵としての基礎的な訓練を受け、その後中国大陸の北京近くに送られた。以後終戦まで河北省を中心に従軍し、中国軍と直接戦火を交えるような激しい戦闘も何度か経験したという。戦争に関する

父の話の内容はかなり多岐に渡った。

例えば、中国に送り込まれて、駐屯地の兵舎で初めて食べた高粱（こうりゃん）混じりの飯のこと。最初のうち、そのあまりの不味さに一膳食べるのも苦痛を感じたほどだったどんぶり飯が、それから一年後には過酷な訓練や作戦行動による激しい体力の消耗と空腹のせいで、あっという間に平らげ、さらにお代わりを求めるほどにまでなったというエピソードもその一つだった。

また、北京市の中心部にあつて、大使も館員もとつくに撤退した米国大使館の状態を確認するために建物の内部に入ってみたら、地下に立派な映写室があり、映写機には『風と共に去りぬ』という映画のフィルムがかかっていたと。そこで、『試しに上映してみようじゃないか』ということになり、同僚の士官達と一緒に観たら、これが3時間以上に及ぶ実に見ごたえのある総天然色トーキー映画の大作だった。父と同僚は『俺達は、こんな凄い映画を造る国と戦争を始めてしまったのか。こりゃダメだ』と思った話などを面白おかしく聞かせてくれた。

戦争にまつわる様々な話の中で、子供心に特に印象に残ったのは、ある戦闘での父の体験に関するものだった。その戦闘では、敵味方が激しく銃火を交え、周囲を銃弾が飛び交ったという。自分のすぐそばを飛んでいく銃弾は、空気を引き裂くバシッ、バシッという音を立て、例え鉄のヘルメットを被って遮蔽物の陰に隠れていても、凄く怖かったと父は語っていた。敵とは200m位の距離。お互いに小銃や機関銃を撃ち合う中で、父は、隣の同僚が敵兵のいる辺りに向かって撃った小銃弾が敵兵に命中してのけぞるよう倒れるのを目撃したという。周囲を銃弾が激しく飛び交う中にあつても、兵は自分の撃った弾が敵に命中すると、ある種の手ごたえを感じるらしく、その同僚も『あっ、当たった』と言ったそうだ。

激しい戦闘の中で、自分の撃った弾が敵兵に当たったとなれば、軍事的には間違いなくお手柄だ。しかし、その同僚はすごく落ち込み、しばらくは夢にうなされてろくに眠れず、食欲もすっかり落ち込んでしまったという。

彼はとても親切で心の優しい人だったと父は言っていた。街などで見知らぬ他人が倒れているとか、気分悪そうにしゃがみこんでいると、放っておけずに声をかけ、助けようとする人間だったらしい。そんな彼にとって、個人的には全く何の恨みもない中国人を、単に戦闘中の敵兵というだけで、銃で倒してしまったことへの罪悪感と後悔と呵責の念に苦しんだのだと父は言った。それが例え、撃つか撃たれるか、やるかやられるかという極限的な戦闘中のことであつたとしても、人が人をあやめてしまうという行為は、平時に生きる我々には想像も出来ないほどの強いストレスや心の傷をもたらすに違いない

戦争の悲劇というと、戦地で夫や兄弟や子供が戦死したとか、爆撃で親や祖父母を亡くしたとか、親友の乗った輸送船が敵の潜水艦に沈められたといった、被害者や犠牲者の肉親、友人、師弟などの立場からのエピソードが断然多い。しかし、軍人として運よく終戦まで生き延びた人々の中にも、敵兵を小銃や機関銃であやめてしまったとか、空中戦で敵機を撃墜してしまったなどの理由で、心に傷を負い、誰にも明かすことなく、後悔や呵責の念を背

負ってその後の人生を生きても少なからずいたのではないだろうか。

こうした状況は戦勝国となった米国側の兵士も全く同様で、戦時中に日本兵や民間人を多数銃撃や爆撃や雷撃で殺傷したことが心の傷となって、終戦後何年間も苦しんだ人達がかかりいたという。また太平洋戦争ではないが、ベトナム戦争や湾岸戦争などで、狙撃兵として多数の敵兵を射殺した人間が心を病んでいくという実話が書籍化され、或いは映画化された。今や PTSD（心的外傷後ストレス障害）は、戦争が兵隊にもたらす深刻な心の病として米国でも広く認知されているらしい。

ところで、前に、昭和 30 年を過ぎた頃になって父の中でようやく戦争の記憶がほぼ消え去ったようだと書いた。けれども中国兵を撃った父の同僚にとって、本当の終戦は、天寿を全うして中国での忌まわしい記憶から完全に開放された時だったのかもしれない。日本においても米国においても、己の死をもって、やっと第二次大戦が完全に終わったという人は案外大勢いたのではなからうか。

こうしてみると、戦争とは勝った側の人間や、兵として運よく生き残った人達にも、沢山の苦しみや後悔や呵責の念をもたらすものと言える。

それでも人類が存在する限り、そして人間に闘争本能がある限り、残念ながら戦争も武力衝突も決してなくなるのではないのだ。

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（４４）

大竹漢洲

哲学の道・ 周山街道の古制 1・高尾の夏 ・神護寺

木上 勉著 画文集 「京の思い出図絵」

高雄

神護寺へは冬の日がいい。

石段の途中で、眼の下に清滝川が見える場所がある。

そこで一服していると、深い溪流の底から雪が無数の糸になって舞いあがってくる。

風のかげんで、下から降るのである。

石段へよこしなぎに降りつもの景色もいい。

文覚の衣にも降りかかった雪だろう。

神護寺は京都から丹波に抜ける周山街道の高雄に位置しています。周山街道は、10月も中旬になると京都で最も早く紅葉が始まる場所です。高尾、榎尾、梅尾から清滝川を北上して、中川から周山を経て福井県の小浜に至る街道です。旅人にとって周山街道は、学生の頃から強く印象に残っている街道です。途中に北山杉が続く美しい街道です。高尾から街道を北に上がると、梅尾には高山寺の名刹があります。京都の観光地として辺鄙な処に位置しているので、シーズンでも観光客の数は多くありません。

旅人が京都に憧れを抱くようになったのは、最初は古寺でも無く、庭園でもありませんでした。高校時代に出会った一冊の本です。川端康成著の「古

都」です。

京都を舞台にして、双子の姉妹が数奇な運命を辿る物語です。祇園祭の宵山に河原町の御旅所であ会った日から、二人に夢にも見ない運命の悪戯が始まります。そして舞台となった処が、周山街道の北山でした。「古都」は学生の頃に映画化され、今出川通に在った映画館で観た記憶があります。主演は岩下志麻でした。映画と現実とが融合して、複雑な世界を経験しました。周山街道を走る度に思い出される懐かしい記憶です。

神護寺は平安京と内裏の守護を、和氣清麻呂に託して連立させた寺院でした。桓武天皇は平安京遷都にあたって、平安京の内裏を平城京で跋扈していた怨霊と、延暦寺の天狗法力から守る為に、清麻呂から子息の弘世と真綱の二代に亘って「神護寺」は建立されました。もともとこの地には和氣氏の氏寺として建立された愛宕五坊の一つ「高雄山寺(高雄寺)」がありました。

和氣氏は、河内にも「神額寺」という氏寺を持っていました。弘世・真綱の時代になって、二寺院を合併して、高雄に建立した新たな「神護国祚真言寺」が、神護寺の始まりです。その後、神護寺を舞台にして、平安仏教の世界に華々しく登場した人物が、唐の長安から帰国した空海でした。

余談です。京雀たちは都の左右に位置する高峰には天狗が棲んでいると信じていました。天狗と大天狗とは違います。御所の皇族や貴族が恐れ慄いた大天狗の条件は、実在した人物であること。高貴な方であること。なお且つこの世に怨みを持って妬んでいった方であること。この条件む満たした「悪魔王」とも呼ばれた皇族に属する方々が、怖ろしい大天狗になりました。

歴史上で「悪魔王」の棟梁の筆頭は、先ず崇徳院、淡路に流された淳仁天皇、井上皇后、後鳥羽院、後醍醐院の皇族方です。悪魔王の大天狗は、高峰に棲む天狗や他の妖怪、物の怪、変幻の類とは全く違うのが特徴です。大天狗の怨霊は、決して容赦する事無く、末代までも祟り悶死が繰り返されます。

本題に戻ります。神護寺を舞台にして、平安仏教の世界に華々しく登場した。人物が、空海でした。しかし神護寺との関係で言うと、空海先輩格にあたる最澄の方が先でした。神護寺がまだ高雄山寺だった延暦21年(802年)に、比叡山を下りた最澄は、高雄山寺で「天台妙義」を説いています。南都六宗から集まった衆僧たちに大きな衝撃を与えました。最澄が入唐する2年前のことです。804年には最澄も空海も揃って入唐しています。最澄は遣学生の資格であり、空海は単なる留学生の待遇で最澄よりも下位の扱いでした。しかし帰国してからは、空海が長安で師恵果の元で「真言密教」を学んで帰国した後は、両者のを劃田だま転して・しまいます。

余談です。「真言密教」とは「三密」のうち「口密」のことを言います。「三密」は密教で仏の身・口(くう)・意の働きを言います。人間の思議(考えはかること)の及ばないところを「密」と言います。人間の身・口・意もそのまま絶対になる仏の働きに通じるところから「三密」という。「真言」はその意味が深く、菩薩も伺いことができないので「秘密」という。お分かりになりましたか？

新しい都・平安京に遷都しても、皇族や貴族たちは身に降り懸かる怨霊の

崇りである死や疫病、火災や地震、風水害や大風に恐れ慄き、凡ゆる神や仏に槌りました。藁にも縋りたい心境であった皇族や貴族たちにとって、新しい文化として認識し期待したのが、当時は世界最大な文化の都であった長安から、一歩先に最澄が持ち帰った新しい密教でした。しかし最澄の密教は「台密」とは言え「雑密」と呼べ完璧な密教ではありませんでした。

「金剛界」と「胎藏界」の両曼荼羅に基づいた理論と秘儀の完璧な「真言密教」の請来は、遅れて帰国した空海まで待たねばなりません。先ず空海は、「真言密教」の論理的体系化のために、愛宕山の神護寺に入りました。真言密教は病弱の桓武天皇に歓迎されて、平安京に真言密教ブームが到来します。神護寺が真言密教の本拠地となり、空海は平安京の朱雀門の入口を守護する二大官寺の一つ東寺(教王護国寺)を賜われることになりました。

最澄は平安京の東北の高峰・比叡山に延暦寺を建立して一方の天狗となり、弘法大師は御所の権力者たちの信頼を得て、また一方の天狗になりました。しかし空海は強かさがありました。空海は権力者たちの力に迎合することなく、権力者たちを逆に利用して、反権力・反平安貴族たち(反藤原氏)の力を蓄えて行く事になります。

さしもの神護寺も空海の亡き後、荒廃の一途を辿ります。「平家物語」にも描写されているように、仏殿の屋根は壊れたまま放置され、仏像も風雨に晒されて毀れ、修理する僧侶もいない惨状に変わり果てた神護寺を目の当たりにした人物が文覚上人でした。

余談です。文覚上人は真言宗の僧侶ですが、俗名は遠藤盛遠で、御所を警護する北面の武士でした。誤って袈裟御前(源渡の妻・容姿端麗)を殺して出家し熊野で苦行した人物です。

神護寺の再興に我が身を捨てて努力したのが「荒法師」と呼ばれた文覚上人その人でした。何故、荒法師と呼ばれたかは、上人の行動にありました。神護寺再興の費用を集めるため、勸進帳を待って、後白河法皇の住む御所・法住寺殿(三十三間堂)に押しかけて大騒ぎを引き起こしています。受けた刑は、伊豆への流罪です。その刑を許された文覚上人は、源頼朝に会見して平家打倒を示唆します。結果、平家は壇の浦の戦いで、一門は海の藻屑と消え、鎌倉幕府が成立しました。文覚は源氏再興に尽くした褒章として、頼朝から神護寺再興の援助を与えられ、今日、目にできる伽藍に復興されました。更に東寺の大修理にも主導的な役割を果たしました。頼朝亡き後、佐渡・対馬に再び流罪になった波瀾万丈の男・文覚上人、は荒法師でした。女に惚れたのは65年の生涯で一度だけでした。その相手は、袈裟御前でした。学生時代に井上靖著「文覚上人遺文」を読んだことがあります。捨てられないで、書棚に残っています。再読して見たい本です。

余談です。文覚上人の墓が、高雄山の山頂近くにありますが。山頂から京の怨霊に睨みを利かせているのかも知れません。

目に青葉 山ほととぎす 初鰈

芭蕉

(この項つづく)

文化講座・講演会

奈良興福寺文化講座 2018年6月21日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講「300年ぶりの興福寺中金堂」

興福寺境内整備委員会座長 鈴木嘉吉

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話・「奈良・祈り・心」 興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

第95回 新三木会講演会のご案内

1、日時・会場 2018年6月21日(木) 13:00-15:00 如水会館

2、講師・演題 『中国の科学技術振興について』

沖村憲樹氏 技術振興機構顧問(元理事長)

3. 申込・会費 E/Mail: shinsanmokukai@gmail.com

Tel: 047-464-4063

フルネーム：一般・天地シニアネットワーク

会費:2000円 婦人1000円 学生無料

茶話会:15:15-14:20 千円(自由参加)

4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

5. 予告

7月19日(木)第96回 『アメリカと中国の長い歴史』

松尾文男氏 ジャーナリスト・元共同通信常務取締役

事務局

<事務所移転しました>

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先>振込先：三井住友銀行「神田支店」(普通) 7871532

天地シニアネットワーク・テーブル・471号

発行:2018年5月18日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

新住所:〒116-0001 荒川区町屋3-2-1

ライオンズプラザ町屋703

メールアドレス: tentisenior06@gmail.com

電話・FAX・03-3819-7651

携帯電話(津田):090-2534-1316